

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2000-517051(P2000-517051A)

【公表日】平成12年12月19日(2000.12.19)

【出願番号】特願平10-511017

【国際特許分類第7版】

G 0 1 N 3/48

G 0 1 N 3/40

【F I】

G 0 1 N 3/48

G 0 1 N 3/40 E

【手続補正書】

【提出日】平成16年8月20日(2004.8.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年8月20日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

平成10年特許願第511017号

2. 補正をする者

住所 アメリカ合衆国 テキサス 78249-3308,
 サン アントニオ, ネットワーク 12500, スイート 112,
 ユニバーシティ ビジネス パーク

名称 オステオバイオロジックス, インコーポレイテッド

3. 代理人

住所 〒540-6015 大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号
 クリスタルタワー15階

氏名 (7828) 弁理士 山本 秀策

電話 (大阪) 06-6949-3910



4. 補正対象書類名

請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。



冬
多
シ
○

請求の範囲

1. 物質の加圧特性を測定する装置であつて、

- a) 圧入先端と、
- b) 或る一定の直線距離を移動し、かつ該圧入先端を該物質に圧入することが可能な荷重システムと、
- c) 該物質により該圧入先端に及ぼされる力を測定する力検出システムと、
- d) 該力検出システムにより検出された力に対する該圧入先端の傾斜の影響を補正する可変角度補正システムと、
- e) 該力検出システムの出力を該加圧特性を表す表示に変換する表現システムとを備える、装置。

2. 前記荷重システムが、

- a) モーターと、
- b) 該モーターにより移動させられる駆動シャフトと、
- c) 該駆動シャフトの移動を判定するシステムとを備える、

請求項1に記載の装置。

3. 前記力検出システムが、

- a) 前記圧入先端に堅固に接続される検知アームと、
- b) 該検知アームの屈曲を測定する1個以上の張力ゲージとを備える、
- 請求項1に記載の装置。

4. 前記可変角度補正システムが前記圧入先端上に凸状の圧入表面を備える、請求項1に記載の装置。

5. 前記表現システムがビジュアル・ディスプレイを備える、請求項1に記載の装置。

6. 物質の硬さを測定する水密装置が、

- a) ハンドピース、およびバイオネット型カプラーの使用により該ハンドピースに接続されるプローブと、
- b) 該ハンドピース内部に配置されるバッテリーと、
- c) 剛性物質から形成され、かつ半球状または放物面状の輪郭にされた凸状先端を有する圧入先端と、
- d) 該先端に作動式に接続される荷重システムであって、
 - 1) ステップ式移動が可能なマイクロプロセッサ制御直線作動器と、
 - 2) 該直線作動器により移動させられる駆動シャフト組立体と、
 - 3) 該直線作動器に作動式に接続されて、該直線作動器により採択されるステップ数を判定する手段とを備える、荷重システムと、
- e) 力検出システムであって、
 - 1) 前記圧入先端に堅固に接続される検知アームと、
 - 2) 該検知アームの曲げを測定するための1個以上の張力ゲージとを備える、力検出システムとを備える、水密装置。

7. 物質の加圧特性を判定する方法が、

- a) 圧入先端を備え、該圧入先端が該物質に接触するようにする装置であって、該圧入先端と該物質との間の接触の角度の影響を補正する手段を備える装置を位置決めする工程と、
- b) 該圧入先端を該物質の中に延ばす工程と、
- c) 該物質により該圧入先端に及ぼされる力を測定する工程と、
- d) 該物質の硬さを該力測定値の関数として算出する工程とを含む、方法。

8. 前記物質がインサイチュで関節軟骨を含む、請求項7に記載の方法。

9. 請求項1に記載の装置を使用して軟骨が健康か病気かを判定する方法であつて、

- a) 該軟骨の加圧特性を判定する工程と、
- b) 該加圧特性を健康か病気かの確定的状態での軟骨の該加圧特性の既知の測定値と比較することにより、該加圧特性から健康か病気かの評定を補間する工程とを含む、方法。